



クリスチャンプレイズチャーチ

## 使徒の働き講解(1)【我々はどうすべきでしょうか?】

聖書: 使徒の働き1:1-8節 / 暗唱: 使徒の働き1章8節

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

今日から使徒の働き1章から始め、使徒の働き全体を学んでいきたいと思います。使徒の働きは聖霊によってもともと医者であり、イエスの弟子であったルカを通して書かれ、テオピロ総督に送られた聖書の御言葉です。しかし、実際にこの使徒の働きという書には神様から主の教会であり、キリストを信じる我々に送られた御言葉です。御霊の神様が我々にうちに望まれ働かれると、どのようになるのか、つまり、使徒の働きは**聖霊の働き**であり、信仰の共同体である主の教会がどうやって立てあげられていくのかが分かる**主の教会の働き**であり、同時に神の国が献身された人々を通してどうやって前進していくのかを教えてくれる**使徒たちの働き**の書でもあります。

来月で設立10周年を迎える我々のクリスチャンプレイズチャーチがこれからさらに健康な教会、共同体として、信仰の家族としてどう生きるべきであるかを使徒の働きのメッセージは我々に必要なことをたくさん教えてください。ともに謙遜に学び、経験していくみなさんとなりますよう主の御名によって祝福します。

みなさん、動物の飼育師が猛獣のライオンの檻（おり）に入る時、椅子をもって入るのだそうです。その理由は椅子には四つの足がありますが、その四つの足が自分を攻撃して来るだろうと勘違いして緊張し、警戒しながら、四つの足を交互に見つめるのです。ところが、四つの足のどちらからどれが自分に攻めてくるか分からないし、いっぺんに四つの足に集中できないので、しばらく時間が経ったら、ライオンは戦う気が弱くなり、あきらめておとなしくなるのだそうです。我々がこの世で生きることも同じだと思います。この世には我々の関心事がいっぱいあります。お金、出世、人気、健康、名誉、知識、権力、美しさなど。問題はこれらすべてに関心を持つことができないため、あきらめ、そのゆえ特に信仰の面において無気力になれてしまいがちではないでしょうか。

使徒の働きには我々が知るべき特に聖霊の神、教会、クリスチャンという存在、目的、その役割などについて重要な内容が書かれているので、共に28章まで毎週の使徒の働きを通してもう一度信仰が強められ、主のために励むクリスチャンプレイズ教会の全家族となりますようにお祈り申し上げます。アーメン！信仰が大切です。みなさんの信仰が強くなれば、心も、働ける力も、家庭もさらに強くなります。みなさんの信仰が回復されれば、すべての関係も回復されます。みなさんの信仰がさらに成長すれば、みなさん自身がさらに成熟されさらに大いに祝福され、用いられます。それを共に祈りつつ、望みながら、今日の本文に入って見ましょう。

今日の本文である使徒の働き1章1-11節までは使徒の働きの序論（じょろん）として使徒の働きの言いたいことをまとめている大切な部分だと言えます。復活されたイエス様は40日間弟子たちに訪ねました。よみがえられて神様の右の座に座るだけでも十分な方だったのにもかかわらず、イエス様は天に上がられる前、かならずやりとげることがありました。“イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。”(3節)

イエス様は地上におられる時、毎日福音を伝え、すばらしい奇跡も行われました。しかし、イエス様が行われた中心的なことは弟子たちを訓練し、教えた事だと言えます。なぜなら、イエス様はいつまでも弟子たちとおられず、十字架で死なれ、よみがえられたら、まもなく天にのぼり父なる神の御もとに帰られるからです。そして、イエス様が天に昇られた後は、イエス様の代わりに弟子たちがその主のお働きを続けなければならないのです。そういうわけでイエス様は弟子たちを集中的に訓練し、教えました。その意味ではだれでもではありません。そのように整えられ、準備されている人々の上に聖霊が満たされるのです。イエス様が昇天される前、残される愛する弟子たちがこれからどうすべきであるかを教えてくださいと同時に我々クリスチャンが何を、どうすればいいのか教えてください。

### 1. 聖霊の充満を受けなければなりません。

本文の4-5節に“彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは**聖霊のバプテスマを受けるからです。**”ここで“父の約束”と“**聖霊のバプテスマを受けること**”は同じ意味であり、言い換えると“**聖霊に満たされること**”を意味します。ただし、**聖霊に満たされるためにはエルサレムを離れないようにと命じられました。**なぜ、イエス様は弟子たちに聖霊に満たされるために静かな山や離れたところで祈りながら待つのではなく、エルサレムを離れないようにと命じられたのでしょうか？

確かなのは弟子たちを含め、イエス様を愛し、慕っていた人々はイエス様を処刑に渡したイスラエルの指導者たちとユダヤ人を憎んでいたかも知れません。そして、古代社会では一人が反逆という罪を犯したというと彼を追いかけた人々をも同じく罪人扱いされたので、イエス様を殺した人々がまた弟子たちにもどんなふうにするか分かりません。そういうわけで、ヨハネの福音書20章19節を読むと、弟子たちはユダヤ人たちを恐れて集まった所を閉めて、隠れたように過ごしました。ですから、弟子たちは当然エルサレムに留まりたくなかったとはずです。

もちろんイエス様はこんな状況になる事をすでによくご存知だったと思います。それにもかかわらず、“エルサレムを

離れないで待ちなさい。”と言われたのはどんな苦しみがやって来ても信仰を捨てないで信じ続けながら忍ぶべきであるという意味です。信仰を保って忍びながら待つということは信じる者たちにおいても絶対必要とされることでしょう。ある目が見えない少年がいました。10才に父が亡くなり、中学校1年の時、友達とサッカーをしながら目にボールが当たって、2回の大手術を受けましたが、結局網膜（もうまく）が破損されてしまって目が見えなくなったのです。健康だった息子の目が見えなくなったことを聞いた母はショックを受けて二日後急に亡くなり、残されたたった一人の姉が生活のため学校を辞めて、就職して働いている途中働きすぎて倒れて過労死で死んでしまいました。目が見えない少年は絶望と悲しみを耐えることができず、何度も自殺を図りましたが、その時、ある牧師先生に出会って、イエスを信じるようになりました。

彼はイエスを信じた後、周りの状況は別に代わりはなかったのですが、自分の中大きな一つ変化がありました。それは、ないことにつぶやかないで、自分にできることのため感謝しようと決心しました。それから彼の人生は変わり始めました。彼は18歳に盲人学校で中学校の勉強を始め、韓国のヨンセ大学教育学科を卒業し、1972年、アメリカのピッツバーグ大学で博士学位を取り、アメリカのイリノイ大学教授として働き、とうとうアメリカのブッシュ大統領に呼ばれ、国家障害委員会政策官房に任命され働きました。韓国人としてアメリカで一番高い地位に上がった方ですが、彼の名前はカンヨンウという博士です。カンヨンウ博士は去年2月23日に膵臓(すいぞう)癌で召されましたが、この言葉を残しました。“私がもし、信仰によってこの試練と苦しみを忍ばず、歪みながら自虐したなら、今日の私は決していなかったらう。”そうです。神を信じる者は神の約束を信じ、焦らず神様の時まで耐え忍べるからこそ成功し、祝福されます。どんな時にもかららず神様の計画と御心があり、神の時があります。だからこそクリスチャンは神様より先に動かないで信じ続けて神の時を待つことが大切であることを覚え、実践して行きましょう。

弟子たちを含め、イエス様を愛していた人々はイエス様を殺したイスラエルの指導者たちとユダヤ人たちを憎み、エルサレムもいやになったでしょう。そしてエルサレムに残っているとまたこれからどうなるか分からない風前（ふうぜん）のともしびのような状況でした。しかし彼らはイエス様から言われた“エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。”主のお言葉に従って、一つのところに集まって、心一つにして祈りに専念しました。その結果、イエス様の言われたとおりに弟子たちはみな聖霊に満たされました。愛するみなさん!2013年度後半、どうしましょうか。私たちがもどんなにつらくても、イエス様が世の終わりまで我々とともにおられる主の約束を信じて、主の御前で急がないで、焦らず、黙々と耐え忍び、聖霊に満たされ、祝福されますように心から願ひ祈ります。

## 2. 好奇心からではなく、信仰によってでなければなりません。

本文6節に“そこで、彼らはいっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ、今こそ、イスラエルのために国を再興して下さるのですか。?’”

ここで“イスラエルの再興”というのはローマの殖民統治からイスラエルを解放させる政治的な事を意味します。

これは一言で言うとイエス様を勘違いしたことから出た言葉です。

なぜなら神様は創世記3:15で“女の子孫”つまりイエスキリストを通して救って下さることを約束しただけではなく旧約の多くの預言者たちをとおしてダビデの子孫からメシアが生まれると予言されました。もちろん女の子孫とダビデの子孫からのメシア(救い主)というのはイエス様を指し、イエス様による救いとはこの世に属しているのではなく、神の御国に属することです。

しかしイスラエルの民たちは自分たちの先祖がエジプトの奴隷生活からBC1446ごろ、モーセによってくすしい御業を経験し、エジプトの王であったパロ王の奴隷から解放され約束の地であるカナンの地に入られた経験があったため、神様が約束された救いを当然、この世において、政治的な救いとして誤解し、メシアが来たら、ローマの殖民から解放されダビデとソロモンの時代のような栄華を味わえると勘違いしたのです。

そういうわけで弟子たちはイエス様の働きの期間中、イスラエルの王になられ、治められることを期待し、その時、イエス様の右、左につこうとそんなに期待していたわけです。しかし、弟子たちの期待はあんなにすばらしく奇跡を行われたイエス様が捕まえられて十字架につけられ死なれたことでくずれてしまいました。弟子たちはそれぞれ散らされていきました。復活されたイエス様に再び出会った弟子たちはついにイスラエルを回復させる時が近づいたと思って“いまこそ、イスラエルを再興させて下さるのですか?’”と質問したのです。

その時イエス様は“いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくても良いのです。それは父がご自分の権威をもってお定めになっています。”と答えられました。

愛するみなさん! 信仰と好奇心とは違います。結婚する前の男女は相手に対してただ好きで、もっと知りたい気持ちでいっぱいになりますが、結婚してからは違ってきます。好奇心だけでは住めなくなります。まさに、信頼と愛によって生きなければなりません。もし、結婚した夫婦が一生涯好奇心で夫のスーツのポケットを何があるかがし、妻のハンドバックを捜すならそれは幸せな結婚生活だと言えるでしょうか。このように信仰の生活も好奇心ではなく信仰と愛によらなければなりません。聖書を好奇心からではなく信仰によって読まなければなりません。教会も好奇心から通うのではなく信仰によって通わなければなりません。イエス様も好奇心からみあげるのではなく信仰によってみあげなければなりません。これこそが正しい信仰の態度ではないかと思えます。

なぜなら、神様は我々が知るべきことは知らせ、知らなくてもいいことは知らせなかったからです。しかし、それは信じようとしなくて、知らないことを知ろうとする時、変な異端が作られるのです。みなさんの子供が質問することに親

であるみなさんは全部答えてあげるのでしょくか。子供が知らなくてもいいこともあります。それでもしきりに質問すると“あなたはいまは知らなくてもいいの。大きくなったら分かるのよ。”と答えます。このように我々もこの世に生きている間、すべてを全部分かることはできません。たとえば、自分がいつ死ぬか、死ぬ日を知っているなら、それはいいことでしょうか。確かなのは自分がいつ死ぬか知ることが良いのであれば、愛の神様はきっと教えてくださったはずです。知らなくていいことは知らないときがむしろ楽です。特に神様の時と定められた時期は我々が知るべきではありません。ですから、神様が定められた時と時期について知ろうともしないで、知るべき事をしっかり知り、知らない事はただ信じて主の御手とその時を待てて行くのが最善な姿勢ではないでしょうか。

### 3. イエス様の証人とならなければなりません。

本文の8-9節で“しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。こう言うてから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。”

ですから、イエス様が弟子たちに最後に残した言葉というのは“わたしの証人となる”ことでした。

ここで“証人”という言葉は法的な用語として“法廷に出て自分が見て、聞いた事実を話す人”です。

証人は沈黙してはいけなしい、うそをついてもいけなしい、ただ自分が見て聞いたことを話す義務があります。それにイエス様は我々に証人となるようにと言われましたが、我々が話すべき真実とは何でしょうか。それは“イエス様は聖書の予言のとおりこの世にお生まれ、私たちの罪を贖うために十字架につけられ、三日目によみがえられました。そのイエス様はこの世を裁くためにふたたび来られます。そのイエス様を信じれば救われます。”です。

バンハウスという先生は“今日は自閉症クリスチャンが多い”と言いました。“自閉症”というのは精神分裂症の一つとして周りに関心がなく、ほかの人と共感もできないため、あまり話さず、自分の世界に閉じこもってしまっている症状です。ですから、自閉症を持っている子供がいるとその親は本当につらく、悲しんでいます。しかし、神様も霊的に信仰の面において自閉症のような自分だけ、教会の中だけのクリスチャンをご覧になると、本当に悲しんでおられることを覚えなければなりません。ですから神様は自閉症の子供のように自分の世界に閉じこんでいないで、第二テモテ4:2に“みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。”と命じられました。そして、覚えるべきことはイエス様は我々にただ伝道を命じるだけでほっといたわけではありません。マルコの福音書6章7節では“また、十二弟子を呼び、二人ずつ遣わし始め、彼らに汚れた霊を追い出す権威をお与えになった。”と書かれています。

これはイエス様が我々に伝道を命じる時は汚れた悪霊を追い出せるほどの権威をも与えてくださったわけですから、伝道すると神の力を体験し、くすしい御業が起こるのは当然です。

本文の8節にも“聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。”と言われました。(力：原語：ディナミス：ダイナマイトみたいな爆発的な神の能力を意味)

これはイエス様が我々に証人としての使命を与えながら、同時に十分にできる力をも増してくださることを約束されたのです。そういうわけで使徒の働き2章41節ではペテロが説教する時、一度に3,000人も信じて洗礼を受け、使徒の働き3章1-10節では、ペテロがイエスの御名に命じたとき足のなえた人が起き上がって歩いたり、走ったりしたのです。これはイエス様の言われた通りに従えば、すばらしい神の力と恵みを体験することができるということを良く表してくれた出来事です。

そういうわけでみなさんに一つ質問します。みなさんは聖霊を受けましたか？

確かなことは第一ヨハネ4章15節に“だれでも、イエスを神の御子として告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。”と書かれていますので、イエス様が神の御子であることが信じれば、それは聖霊を受けたと言う証拠です。これは言い換えると“私は力を受けなかつたので、伝道なんかはできない”という言い訳は通用されなしいという意味です。

ところが、聖霊が我々に宿っておられるのになぜその力が現されなしいでしょうか？一言で言うと自分が従わなしいからです。たとえば、アパートに住んでいる方がエレベータの中で信じていない隣人に会ったとき、みなさんの心には‘イエス様の事を言おうか？’という思いが生じるときもあるでしょう。それと同時に心のどこかでは‘いや、余計に話を持ち出したらいやがるといけなしいんじゃないか’という思いもあるでしょう。この二つの思いの中で悩んでいるうちにエレベータの扉が開きます。すると‘あ、良かった。さようなら’と言いませんか。確かなのは信じていない人に会ったとき心に‘福音を伝えよう’という思いは聖霊が私たちに教えてくださったことです。なのに、我々はそれにすぐ従わず、ためらっているうちに時間が過ぎます。そういうわけで聖霊の力は当然発揮されなしいのです。

たとえば、発電所から電気を私たちの家まで流しています。しかし、発電所がどんなに立派で、たくさんの電気を流したとしても我々がスイッチをオンにしなければ、電灯はつきません。同じように聖霊が我々とともにおられますが、我々が従順というスイッチをつけなければ聖霊は我々の中では働けなしいです。ですから、今も我々が御言葉に従えば、聖

霊はみなさんをおしてすばらしい御業を行われ、用いられると信じます。ペテロだけが3000人に伝道できますか 我々も3,000人に伝道できるでしょう。エルサレムの教会だけ何千、何万人集まる教会になれるのですか。我々の教会もエルサレムの教会よりもっと大きい教会として成長できます。大切なのは御言葉に従えば、聖霊のすばらしい力を体験することができます。そして、よく従う状態、聖霊充滿、聖霊に満たされ、よく従えられるために私たちは日々主の御言葉を黙想し、学び、祈るべきではないでしょうか。ですから、逆に言いますと、自分が聖霊によく従える準備ができているか、満たされているかどうか分かりやすい自己点検方法は日々自分が主を慕い求めているため御言葉を聞き、祈っているかどうかを見れば簡単です。みなさんは最近日々聖霊に満たされ、従っていますか。聖霊の神がみなさんの内に、家庭内に、人生の内に働いておられるのでしょうか。

メッセージを終わらせます。

ケンブリッジ大学のC.S. ルイス教授は“天に向けて狙いなさい。すると地はおまけでついてくるでしょう。地に向けて狙いなさい。すると何も得るものはないだろう。”と言いました。この言葉に同意します。神の国を得る人は世をも得ますが、神の国を失う人は世をも失ってしまいます。

そういうわけでイエス様は“何を食べるか、何を飲もうか、何を着ようか心配するな。これはみな神を知らない異邦人が求めるものだ。まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすればこれらのすべてをあなたがたに与えられる”と言われたのです。

2013年9月から始まった後半も神の国と義のために日々主を慕い求めつつ主の御言葉と祈りをしっかり先に立たせて、聖霊の神によって満たされ、強められ、祝福されるすばらしい人生となりますよう我らの救い主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！